

1/20 47名の高校生県議会



各地から10名の県議が人口減少、地域医療、観光振興、若者定住など、威風堂々と代表質問。終了後、ある少女に「選挙に出ませんか？」と声をかけたら、彼女は笑いつつ「また、考えます。」日々の暮らしは政治に直結しています。若いみなさんがぜひ政治に参画してもらいたいですね!!

活かしたとりくみを積極的に進め、それぞれの地域での競争力を高めていくことが必要だ。

山口県は、総合戦略に即し、全国初となる女性創業応援会社の設立や日本一の農林水産業の担い手対策など、全国トップ水準をめざすとりくみを進めている。

- ④基本目標については、国と地方がそれぞれの役割分担のもと、連携協働しながらとりくんでいく必要がある。また、全国的な制度など国が担うべき課題については、これまでも知事会等を通じて要望活動を行っている。

2. 来年度予算編成

佐々木

- ①とりくむ事業の優先順位と見直しを行い、予算の集中化・重点化を図る、とのことだが、具体的にどんな施策や事業が該当するのか。
- ②社会保障・雇用問題などは人口減少・地方創生総合戦略と密接に関連するので、重点的に予算化されるか。
- ③財政基盤の強化について、とりくみをたずねる。



プライマリー・バランス

(基礎的財政収支・PBとも略される)

借入金を除いた税金などの歳入とこれまでの借入金の元利払いを除いた歳出の差のこと。

実質的な収入と支出の差。

渡邊総務部長

①②「施策重点化方針」に基づき、人口減少の克服に向け、若者に魅力ある雇用の創出や県内への定着、還流移住の推進、結婚・出産・子育て支援などのとりくみについて、さらに強化すべき施策や、国の政策にも呼応した新規施策に、予算を集中的に配分する。

また、必要な財源を確保するためにも、すべての事業を対象に、効果の検証や環境の変化をふまえ見直しの検討にとりくんでいる。おたずねの①と②については、これから予算編成作業が本格化するので具体的に示される段階ではない。

- ②プライマリーバランスの黒字を確保するとともに、県債残高の縮減に努める。また、未利用財産の売却や既存事業の見直しなど、いっそうの財源確保対策にとりくむ。

3. 人権問題

佐々木

仮称「障がい者差別禁止条例」の制定についてたずねる。

- ①障がい者差別解消法が2016年4月からスタートするが、県民が理解し、使いこなさなければ役に立たない。また、障がい者団体からみれば、差別解消法は十分ではなく、足りない部分を、法律の附帯決議にある上乘せ・横出しの条例でカバーするという役割もある。県が官民あげて推進している「あいサポート運動」と連携するためにも条例が必要だ。
- ②2014年、日本が批准した障がい者権利条約は、手話を言語として規定している。山口県議会をふくむすべての都道府県

情報アクセシビリティ

年齢や障がいの有無に関係なく、だれでも必要とする情報を入手でき、利用できること。日本ではまだ聞きなれない言葉ですが、国連の障がい者権利条約の中で、この重要性が説かれています。

